

令和8年度 かほく市立大海小学校 学校評価計画書

経営目標	取組内容	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
1	確かな学力の育成	学習指導部	児童は教師の発問や指示には素直に答えるが、主体的に学習に向かう姿勢やかかわり合って学ぼうとする意識がやや低い。	【カリ・マネの柱】 児童は、自分の考えを友達に伝えることができる。	児童:「自分の考えを友達に伝えることができる」アンケートで肯定的回答が80%以上でA評価	A:80% B:70%以上80% C:60%以上70%未満 D:60%未満	7月・12月 (児童)
			教師は「主体的に学びを深める工夫」を研究の重点とし「教科の見方・考え方」を働かせるしかけ」について算数科において研究を進めている。実践を共有しながら、授業の工夫改善に努めている。	教師は、授業において「主体的に学びを深める工夫」を意識して指導している。	教職員:「児童が主体的に学びを深めるための工夫や改善を行っている」アンケートで肯定的回答が80%以上でA評価	A:80% B:70%以上80% C:60%以上70%未満 D:60%未満	7月・12月 (教職員)
			児童は、問題解決に向けた学習活動には意欲的に取り組むが、自分の学び方を振り返り、次の学びに生かそうとする力が弱い。	児童は、学習を通して何を学んだのかふりかえることができる。	児童:「授業や活動の終わりに、自分が学んだことをふりかえることができる」アンケートで肯定的回答が80%以上でA評価	A:80% B:70%以上80% C:60%以上70%未満 D:60%未満	7月・12月 (児童)
			教師は、児童1人1人の実態把握はできているが、「教科の見方・考え方」を意識した働きかけが十分でない。	教師は、「教科の見方・考え方」を意識した個への働きかけができています。	教職員:「教科の見方・考え方を意識した児童への働きかけができる」アンケートで肯定的回答が80%以上でA評価	A:80% B:70%以上80% C:60%以上70%未満 D:60%未満	7月・12月 (教職員)
		GIGA担当	授業で1人1台端末を活用する機会が増えたが、回数や内容に学年差がある。	教師は、1人1台端末を活用した授業を計画的に行っている。	1人1台端末を活用した授業を週に1～2回以上行っている授業担当者の割合が80%以上でA評価	A:80% B:70%以上80% C:60%以上70%未満 D:60%未満	7月・12月 (教職員)
2	いじめ、不登校や問題構造の未然防止と特別支援教育の充実	生徒指導部	いじめや不登校の事案は少なく、小さなトラブルについても、早期対応している。今年度もスクールカウンセラーを活用していく。	教師は問題行動の未然防止に努め、問題行動が起きた際には、生徒指導主事を中心とした組織的対応で家庭と連携を図り、問題解決をしている。	教職員:「問題行動の未然防止に努めたり、組織的な対応で問題解決を行っている」アンケートの肯定的回答が100%でA評価	A:100% B:90%以上100% C:80%以上90%未満 D:80%未満	7月・12月 (教職員)
				児童は、「いじめは絶対に許さない」という意識をもち、学校生活を送っている。	児童:「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」「いじめをしていない」アンケートで肯定的回答が100%でA評価	A:100% B:90%以上100% C:80%以上90%未満 D:80%未満	7月・12月 (児童)
				保護者に、「学校のいじめの未然防止や早期発見の取組」が伝わっている。	保護者:「学校のいじめの未然防止や早期発見の取組が伝わってくる」肯定的回答が100%でA評価	A:100% B:90%以上100% C:80%以上90%未満 D:80%未満	7月・12月 (保護者)
			学校でのあいさつは元気にできるようになっているが、地域でのあいさつが弱くなってきている。	児童は、学校内外で出会った人にあいさつをしている。	児童:「学校、家、地域の人に挨拶をしている」アンケートで肯定的回答が90%以上でA評価	A:90% B:80%以上90% C:70%以上80%未満 D:70%未満	7月・12月 (児童)
			各クラスに数名ずつ、配慮を要する児童が在籍している。日頃から教師間のコミュニケーションを密にし、共通理解を図っている。	教師は、配慮を要する児童に対して、組織的に取り組めている。	教職員:「特別支援コーディネータを中心に配慮を要する児童への支援を適切に行っている」アンケートで肯定的回答が90%以上でA評価	A:90% B:80%以上90% C:70%以上80%未満 D:70%未満	7月・12月 (教職員)
3	生活習慣の定着と運動能力の向上	保健安全部	道徳の授業で自分の思いを話せる児童が増えてきた。だが、道徳的判断力・実践力の弱い児童もいる。	児童は、道徳の授業を通して、道徳的な判断力、実践力を高めている。	児童:「道徳の授業で、内容項目について考えている」アンケートで肯定的評価が90%以上でA評価	A:90% B:80%以上90% C:70%以上80%未満 D:70%未満	7月・12月 (児童)
					教職員:「道徳では、年間指導計画に基づき、計画的に授業を行っている」アンケートで肯定的回答が90%以上でA評価	A:90% B:80%以上90% C:70%以上80%未満 D:70%未満	7月・12月 (教職員)
			朝ご飯の意識は高まってきた。その他の健康管理への意識については、家庭によって差がある。ゲーム時間が長い児童や、早寝ができていない児童がいる。	児童は、「早寝・早起き・朝ご飯」「視力低下防止」など、健康的な生活を意識して生活している。	児童:「朝食を毎日食べている」で肯定的回答が90%以上でA評価	A:90% B:80%以上90% C:70%以上80%未満 D:70%未満	7月・12月 (児童)
					学校独自の「はっぴ～貯金」の調査で「テレビ・ゲーム・SNSの時間に関する家のルールが守れた」が5日間のうち4日できた家庭が全体の90%以上でA評価	A:90% B:80%以上90% C:70%以上80%未満 D:70%未満	5・9・1月 (児童・保護者)
			体力テストの結果に学年差、男女差がある。どの種目も概ね良好であるが、一部県平均と比べて劣っている種目がある。	教職員は、各学年で、スポチャレに取り組んだり、苦手種目を意識した運動を取り入れたりしている。	教職員:体育の授業を中心にスポチャレに取り組んだり、苦手種目を意識した運動を取り入れたりしている」肯定的回答が90%以上でA評価	A:90% B:80%以上90% C:70%以上80%未満 D:70%未満	7月・12月 (教職員)
4	教職員の働き方改革の推進	教務部	時間外勤務の改善意識は高まってきたが、休日出勤をしている職員もいる。	県全体で行っている勤務時間調査において時間外勤務時間が月平均45時間以下を下回る。	勤務時間調査における、教職員の時間外勤務時間が45時間以下でA評価	A:45時間以下 B:50時間以下 C:60時間以下 D:80時間以下	6月・11月 (勤務時間調査)
5	コミュニティスクール事業の推進	教務部 学校コーディネーター	学校コーディネーターを活用し、地域の人材や素材を取り入れた授業が定着し、児童の関心意欲も高まっている。	教職員は、総合的な学習や生活科等で地域の素材や人材を生かした授業を行っている。	教職員:「総合的な学習の時間や生活科等で地域素材や人材を生かした授業を行っている」肯定的回答が90%以上でA評価	A:90% B:80%以上90% C:70%以上80%未満 D:70%未満	7月・12月 (教職員)
				児童は、総合的な学習や生活科等で地域の学習に楽しく取り組んでいる。	児童:「総合や生活科の学習で地域について学習することが好きだ」肯定的回答が90%以上でA評価	A:90% B:80%以上90% C:70%以上80%未満 D:70%未満	7月・12月 (児童)
			学校関係者評価を児童の指導に生かそうと努めている。今後も学校運営協議会の意見を踏まえ、学校運営を充実していく必要がある。	校区関係者に、学校が積極的に学校コーディネーターを活用し、地域との連携を大切に行っていることが伝わっている。	校区関係者:「学校は、学校コーディネーターを活用し、地域との連携を大切にして教育活動を行っている」肯定的回答が90%以上でA評価	A:90% B:80%以上90% C:70%以上80%未満 D:70%未満	7月・12月 (校区関係者)